

明けまして
おめでとーいございます

前田市長

今日はお忙しい中、座談会に出席いただきありがとうございます。下関市長に就任して2年が経ち、いろんなことが見えてきました。

下関は全国1700ある市町村の中でも、ほかのまちに負けない歴史があります。掘り起こしてPRすることも大切ですが、市民の下関に対する意識、郷土愛をもっと強くしていきたいと感じました。

色んな政策をしていく上で、財政が厳しく、各施設のメンテナンスが優先的になり、文化の発展が後回しになっているのが現状です。

しかし、それではいけないと思います。市民が自分の生活の中で癒しを感じたり、一流の物を見たりするのも大切ですし、自分の趣味を披露できる場があるのも、その人にとっては生きがいにもなります。市民の気持ちを喚起するために、本日、お越しいただいた各分野の第一線の方の話を聞き、市民に伝えていきたいと考えています。

五十嵐

私は声楽家として演奏活動を行いながら、声楽家や音楽の教師など志す人や合唱団の指導なども行っております。

研さんを重ねながら演奏活動を行う中で、多くの音楽家や異なる



▲コンサートの様子(五十嵐)

分野の芸術文化活動を行う方々のつながりも大切にしています。

前田市長

世界で活躍している野々村彩乃さんも下関出身なんですよ。

五十嵐

野々村さんはご近所だったご縁もあり、幼少のころから教えてきました。彼女は、全日本学生音楽コンクール声楽部門高校の部で1位に輝き、副賞として、春の選抜高校野球の開会式で「君が代」を独唱し大絶賛され、日本中から注目を集めました。

その後、国内のみならず世界でも活躍するようになり、すごくうれいのです。

石山

生まれは熊本県の天草で、高校まで育ち、母親が下関出身で縁が

あり下関に来ました。

絵が好きで美術大学を目指し、東京に行き、のちにフランスの美術学校で学び、助手も経験し、下関に帰ってきました。

前田市長

初めて、石山先生の絵を見た時に「絵が光っている」と衝撃を受け、感動しました。

石山

ありがとうございます。市水道局のエントランスにもフレスコ画(漆喰)に描く壁画)を描いているんですよ。現在は市内に持っているアトリエの2階で、絵画教室を開き、絵の素晴らしさを教えています。

その中で、今回、日展(日本美術展覧会)に初出品で初入選した生徒さんがいるのですが、下関の風景を描いて、私のアトリエから日展作家が生まれたことが、とてもうれしく、誇らしいです。

武部

豊浦高校卒業後、一旦は上京しましたが、その後、下関に戻り「劇団海峡座」を立ち上げました。

昨年、創立65周年を迎えました。下関の文化力を市民と共有するよう、地域と密着するという方向性でやってきました。

下関の空襲を舞台に取り組んだり、昨年は直木賞作家 古川薫先生の遺作になりましたが、明治維新

150年記念特別公演「異聞岩倉使節団の長州人」を開催したりと、地元密着路線を一貫してやってきたという達成感がありますね。

前田市長

ここまで長くされているというあつたでしょうね。

武部

もうやめようと思ったりもしましたよ。だけど、古川先生や下関の文学的にすごい人たち、芥川賞・直木賞の候補者の人たちのしぶきを浴びたというか。

昨年亡くなった古川先生は特に映画・演劇が好きだった。仲間は必要ですね。特に、同じジャンルじゃなくて、異業種での話が面白いですね。刺激し合えますから。

安富

私は市役所に勤めていました。入庁したからには下関の事を知らないといけないと、先輩方いろいろ連れて行ってもらいましたね。下関郷土会に入って、毎号、下関のさまざまな歴史をテーマに「郷土」という会報誌を現時点で60号まで発行しました。下関の歴史は豊富ですから、本当に面白いですよ。

市役所を定年退職後、市史編修室で下関の歴史をまとめ、編修室としての業務が終わった時に現在の中央図書館が開館しました。ご



▶上下水道局エントランスのフレスコ画

縁をいただき、図書館長を市役所在職中も含め通算13年間勤め、昨年3月に退任いたしました。

現在は、高杉晋作が眠る東行庵にお世話になっていきます。下関の歴史を後世に伝えていくべく、歴史を分かりやすく、興味を持ってもらえるようにと、図書館では毎月、歴史講座を開催しました。

和仁

私は、函館生まれで、雪印乳業に勤めていました。

知り合いだった東亜大学の前理事長に、大学院をつくって食文化関係の講座を開くから手伝って欲しいと。「下関、遠いなあ」と思いながらも函館と同じ港町。風土は函館と変わらないだろう。僕の肌にあうかなとやってきました。

本来、専門は酪農関係だけど、下関は水産都市、クジラの仕事を手伝ってみないかと言われ、研究室に閉じこもるのも嫌だし、人と

付き合った方がいいです。誰かに頼まれたら断らないようにしようと思っていました。

クジラ関係で市の経済人たちとのつながりができ、ビジネス関係の事にも付き合うようになって、山口銀行の前会長と異業種の交流の場「ミキサー会」を立ち上げました。異業種とのつながりはとても大切ですからね。

文化を次の世代につなげるために

前田市長

下関の文化芸術を盛り上げていくこうとする人たちがバックアップしたいと思っています。

市長になって初の予算を組み立てるとき、印象に残っているのが美術館の補修でした。予算の数字と資料の写真が手元に来た時に、美術館のエントランスに、雨漏りのため、青色のポリバケツが置か

れている様子が写っていました。市の財源は限られているが、この状況を見過ごすわけにはいかないと、補修を決めました。

今までに収集した文化資料がカビなどで傷み、損失になってしま

うから後回しではいけないと。長崎大学在学中に音楽活動をしてきたのですが、当時、長崎は市が中心になり市民劇をしていました。市が脚本や監督・演出・劇団員も市民から募集するんです。

音楽シーンのバンドに選んでもらって約2000人収容のホールで演奏しました。下関もそんなイベントがあればいいと思います。

これから市民の意識をどう引き上げていくことができるか、活動している人たちにどう光を当てていくかそれぞれの分野を通して下関を元気にしたいと考えています。

和仁

函館は下関と人口も同じくらい

で海峽のまちで、日魯漁業、大洋漁業と産業構造が似ています。互いに北洋のサケマス、南極海のクジラが駄目になった途端、町が衰退してきました。

函館はすぐに観光に切り替えましたが、下関は10・20年遅れてしまいました。

長州人の気質かもしれないが、下関の人は自分から出しゃばらないです。新しい事をするのは「よそ者、若者、ばか者」なんです。僕らも気持ち若く、いまさら何を言われたって、どうってこと無いけど、地元にとっとしている人は、やりづらいかもしれませんね。

それに、きつかけさえあれば人は集まります。下関は五つの大学があり、大学生のコンソーシアム（共同事業体）がありました。2年くらいで無くなっちゃいました。

学生は卒業してしまい、うまく次の世代につながらないんですね。そこを行政が関わって、若者に向けたSNSを利用してコミュニケーション、情報のデストレビュー

ション（流通）を考え、刺激を与えていくのがいいんじゃないのかなと思います。

あとは、引込み思案の長州人をどうやって引張り出すかですね。

前田市長

そんなところはあるかもしれないですね。

私は商売人の息子ですが、何かうまくいかなかったら政治のせいにする傾向が強いと感じました。昔の、いわゆる「よかつた時代」。

関門橋もトンネルもなくて、港町として栄えていた時代に薬屋を始めたのですが、物を置いていたら船員たちに飛ぶように売れていたらしいです。

今もお客さんが少なくなる中、客が来るのを待っている。すべてそうではないですが、未だに、そんな傾向がありますね。

和仁

食の立場から言うと、下関はふく、うに、クジラ、あんこう、イカがありますよね。ほかのまちでは統一メニュー、インバウンドのメニュー開発など組合でやっています。

だから、僕はクジラの料理コンクールをやってみたりしました。

市からお金が出ないとやらないっていうのではなく、自分たちが生き残るために

やる。下関はそういうのが少ないです。お金が出ないとやらないというのは、商売の道じゃない。商売はリスクを冒さないといけないっていうのがありますからね。

長州の方々も引込み思案っていうか礼儀正しいっていうのか。文化的な活動にも同じことが言えます。だけど、こつちから一緒にやりませんか？って誘うと参加してくれるんですよ。

前田市長

何かのきっかけがあるといいんでしょうね。

和仁

一緒にやりませんか？っていうのは、地元ではない、よそ者の方が角が立たずいいのかもしれないね。



▲高杉晋作の陶像



▲明治維新150年記念特別公演「異聞岩倉使節団の長州人」



▲講演の様子(和仁)